令和5年度 大阪府立登美丘高等学校 第3回学校運営協議会 記録

〇日時:令和6年1月23日(火)

〇場所:登美丘高校会議室

〇出席者: 藤井 暢人 (桃山学院大学経営学部講師)、 笘廣 啓史 (同窓会長)、船留真紀 (PTA 会長)、井関 雅

(登美丘中学校長)、薬師寺 広隆(第一ゼミナール金剛校 校長)、

○欠席者:松岡信生(自治会長) 以上敬称略 ○事務局:校長、教頭、古﨑首席、栗生進路部長

<次第>

2. 報告

- (1) 令和5年度 進路状況について
- (2) 令和5年度 学校教育自己診断について
- (3) 令和6年度 学校経営計画及び学校評価について
- (4) その他
- 3. 協議
- ・ 令和6年度 学校経営計画 (案) について

〇いただいた主な意見・質問等

・進路について 「年内に60%の生徒が進路先を確保。残る一般選抜を受験する生徒も、6割弱は滑り 止めを確保している状況」

共通テスト及び大学入試制度についての内容質問があり、現状の説明を、大学の観点・中学の観点・塾 の観点から相互共有をする。

原点は少子化 少子化のため、それぞれの大学が早めの確保を行いたく様々な受験システムを作成、年内の決定にいざなう形になっている事を理解。

「本人が十分に納得した、不本意でない進路獲得になるような指導を求める」

・学校教育自己診断について

今年度は、コロナが 5 類になり、正常な教育活動に近づけたことも要因と思われるが、学校教育活動の評価が上がった。また「桜連絡網」という昨年までの電話と紙の生徒経由伝達の仕組みからライン・メール主体の意思疎通システムに変えたことが好評いただいた。

学校経営計画評価 令和6年度計画について

評価元が前述の自己診断が中心になる事もあり、かなり評価が上がっていて、肯定的に内容承認された。 少子化・私立無償化により、魅力をさらに打ち出してほしい。

100周年に対して

出席したが、魅力的な式典であった。100周年の次のステップに期待する。

(座長まとめ)

大切な事は、前述の進路指導の変化にもつながるが、少子化を前提とした学校運営。具体的にはより 丁寧な中学校に関する情報提供。登美丘高校の基軸となる魅力(メインストリート)は何か、それをど う伝えていくのかが、100周年を経た学校と言えども、学校存続のキーとなる。

私学との競争は必ず熾烈になっていくと思えるので、桃山学院大学としても協力していきたい。連携して魅力を作り、伝える仕組みを作っていきましょう。

*令和6年度開催:

第1回:6月18日(火) 第2回:9月14日(土)

第3回: 1月21日(火)の予定